

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平安名 由美子	所 属		医学部 保健学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	当該分野担当科目(生活援助看護技術Ⅰ・Ⅱおよび各実習、フィジカルアセスメント)の講義・演習補助において、学生が理解しやすい授業の工夫を行う。フィジカルアセスメントに関しては、今年度採択されたCOC地域志向教育推進経費による教育改善に取り組む。また、学部学生への研究指導に取り組む。			0.35	生活援助看護技術Ⅰ・Ⅱおよびフィジカルアセスメントの科目では、アクティブラーニングを取り入れ、学生が積極的に講義・演習に取り組めるよう工夫した。演習・実習において、個別支援が必要な学生に対し、積極的に対応した。フィジカルアセスメント、生活援助看護技術Ⅰ・実習Ⅰにおいて、大学COC地域志向教育推進経費による教育改善に取り組み、宜野湾市および西原町と連携した地域での演習・実習を展開した。また、学部学生(4年次4名、3年次2名)の研究指導に取り組んだ。		
研究	0.35	新人看護師の臨床実践能力向上に関する研究に取り組む。次年度の科研費申請に向けて取り組む。			0.35	琉球大学女性研究者支援研究費の交付を受け、新人看護師の臨床実践能力向上に関する研究に取り組んだ。10月に調査を実施し、現在、分析、論文の執筆に取り組んでいる。また、H29年度科研費へ申請した研究テーマについても、研究計画を遂行中である。		
社会貢献	0.10	当該分野担当科目「フィジカルアセスメント」の公開授業に取り組む。			0.20	「フィジカルアセスメント」の公開授業において、1名が受講した。また、大学COC事業による宜野湾市との連携により、「宜野湾市健康づくり市民大会」に看護学生による血圧測定ブースを出展・運営し、宜野湾市民の健康づくりに貢献した。市民から好評を得、宜野湾市より次年度以降の出展・参加希望もあり、今後も継続的に取り組む予定である。		
管理運営	0.20	看護学コース会議への積極的参加、議題調整・議事録分担。担当委員会活動への積極的参加・活動。看護協会施設代表窓口・看護師国試模試担当としての役割を果たす。各種入試試験監督等の職務を果たす。			0.10	看護学コース会議への積極的参加、議題調整・議事録担当により、スムーズな運営に尽力した。看護協会施設代表事務業務に取り組んだ。看護師国試模試担当として、3回の模試を運営・監督した。センター入試試験(八重山地区)業務に従事し、スムーズな管理運営に取り組んだ。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1)本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		高倉 実	所 属		医学部 保健学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.30	<p>共通教育科目(運動スポーツ科学演習)を担当し、全学的教育に貢献する。学部専門科目(疫学, 学校保健学, 健康教育学, 保健統計学, 生命倫理学[1])を担当し、専門性を高める講義を行う。大学院博士前期課程科目(学校保健学特論・特演, 保健学研究方法[2], 保健学特論[1]), 大学院博士後期課程科目(健康増進開発学特論, 保健学特別講義[3])を担当し、種々の疫学的研究について講義する。担当科目においてLearning Management Systemを積極的に活用する。卒業論文, 博士論文の指導を行う。1年生の指導教員として学生支援を行う。</p>		0.30	<p>共通教育科目(健康スポーツ科学演習), 学部教育, 大学院教育について、各々の授業評価は良好であり、教育目標を達成した。学部科目の「疫学」の講義にLMSのテスト機能を使用して、演習問題を掲載し学生に予習復習させるようにした。その結果、本科目の期末試験の平均点は継続的に高得点を維持している。また、「健康教育学」および「学校保健学」においてもLMSを活用して指導した。さらに、大学院共通科目「保健学研究方法」「保健学特論」の英語教材をLMSに掲載して復習させるようにした。今年度は5名の卒業論文を指導した。1年生の指導教員として学生支援を行った。博士論文2編の主査を行った。修士論文2編の主査を行った。</p>
研究	0.30	<p>研究論文の採択を目指す。同様に関連学会で研究発表を行う。研究代表者・分担者として外部資金を獲得し、健康科学に関する研究を積極的に実施する。関連学会の編集委員として学術誌を編集するとともに、関連学会学術誌の査読を行う。</p>		0.30	<p>国内英文誌(査読有)に1編の学術論文を発表した。 国内和文誌(査読有)に2編(筆頭著者1編)の学術論文を発表した。 国際学会(EPHC, ISPAH, APACPH, ACHP)で7題(筆頭演者3題)の研究発表を行った。 国内学会(日本健康教育学会)の学会長講演を行った。 国内学会で23題(筆頭演者2題)の研究発表を行った。 研究代表者として科研費(B)と挑戦的萌芽研究を獲得した。研究分担者として2件の科研費(B)を獲得した。研究分担者として沖縄振興特別推進交付金を獲得した。 日本健康教育学会誌編集委員として2編の編集担当, 日本体育学会誌編集委員として2編の編集担当, 国際誌1編, 国内誌の3編の査読を担当した。 日本健康教育学会アドボカシーセミナーのファシリテーターを担当した。</p>
社会 貢献	0.25	<p>関連学会の代議員・評議員として学会活動を積極的に行う。沖縄県をはじめとする行政の各種委員会の委員等を務め、社会貢献活動に積極的に参加する。今年度に沖縄で主催する第25回日本健康教育学会学術大会の学会長をつとめる。</p>		0.25	<p>第25回日本健康教育学会学術大会学会長 関連学会の代議員(日本学校保健学会, 日本健康教育学会), 評議員(日本疫学会, 日本民族衛生学会), 沖縄県公衆衛生学会幹事 日本公衆衛生学会認定専門家 沖縄感染症研究拠点形成促進事業研究推進委員会委員長 沖縄県保健医療部「健康おきなわ21(第2次)」分野別委員会委員長 沖縄県保健医療部「健康おきなわ21(第2次)」中間評価総括委員会委員 沖縄県食育推進協議会委員 沖縄県禁煙協議会委員 沖縄振興特別推進交付金事業「健康行動実践モデル実証事業」のコアメンバーとして、市民公開講座, 報告会, 学校・地域説明会および学校・地域調査等を実施した。</p>
管理 運営	0.15	<p>琉球大学疫学研究倫理審査委員会をはじめとする全学的委員会, 学部内各種委員会に積極的に参加する。</p>		0.15	<p>琉球大学疫学研究倫理審査委員会委員長として運営・審査に当たった。学内各種委員会に積極的に参加した。新たに人を対象とした研究(医学系除く)の倫理審査規則・委員会発足準備WGに委員として参画した。</p>
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		加 藤 種 一		所 属		医学部 保健学科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.40	学部担当科目は、保健統計を担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす講義・実習を行う。特に保健統計学では、表計算アプリケーションによるデータの統計処理に重点を置く。共通教育では、運動・スポーツ科学演習(ゴルフ)を前後期で3コマ担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす教育を行う。琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務める関係上、4年生(1名)、3年生(2名)の面接等による進路指導にあたる。琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務める。県内外の大会への選手派遣、またゴルフを通じた人間形成、技術、ルール及びマナーの向上に関し指導する。				0.40	学部担当科目では、保健統計を担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす講義・実習を行った。特に保健統計学では、表計算アプリケーションによるデータの統計処理に重点を置きおこなった。共通教育では、運動・スポーツ科学演習(ゴルフ)を前後期で3コマ担当し、学士教育プログラム及びシラバスの教育目標、内容を満たす教育を行った。琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務める関係上、4年生(1名)、3年生(2名)の面接等による進路指導にあたった。琉球大学ゴルフ部の顧問教員を務め、九州学生ゴルフ選手権(2名)の選手派遣、またゴルフを通じた人間形成、技術、ルール及びマナーの向上に関し指導した。				
研究	0.30	2005年、2010年、2015年と実施した県内某国家機関職員の悩みの調査を本年も実施したので、5年ごとの経年変化を分析し報告書、論文等にまとめる。4年生2名の卒業研究を担当し、発表、論文作成の指導を行う。				0.30	2005年、2010年、2015年と実施した県内某国家機関職員の悩みの調査を実施した結果を分析し、報告書を作成、当該機関に掲出した。4年生2名の卒業研究を担当し、発表、論文作成の指導を行った。				
社会 貢献	0.20	県内国家機関の職員のカウンセリング、メンタルヘルス講習等を行う。湘央学園浦添看護学校、那覇医師会那覇看護専門学校において、情報科学(非常勤講師)を担当する。沖縄県学生ゴルフ連盟事務局長を務め、沖縄県学生ゴルフ選手権、中・高校生交流ゴルフ大会等の運営にあたる。				0.20	湘央学園浦添看護学校、那覇医師会那覇看護専門学校において、情報科学(非常勤講師)を担当した。沖縄県学生ゴルフ連盟事務局長を務め、沖縄県学生ゴルフ選手権(年3回)、中・高校生交流ゴルフ大会(1回)の運営にあたった。				
管理 運営	0.10	平成29年度の大学入試センターの試験監督、前期或いは後期試験の試験監督等に従事する。				0.10	平成29年度の前期或いは後期試験の試験監督等に従事する。				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	大瀧 知子		所属	医学部 保健学科	
職名			職名	准教授	
領域	業務ウエイト比(予定)	平成28年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.30	<p>①学部担当科目の目標に照らし実践・研究にむけた看護教育内容を充実する。</p> <p>②皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の実習において毎週火曜日に8時～9時：泌尿器科病棟、9時～13時泌尿器科外来で患者相談や検査、泌尿器関連の看護ケアを行い看護実践教育に活かす。</p> <p>③学生と教員として看護実習指導者と連携して積極的に意見を取り入れ授業と実習指導の評価を行う。</p> <p>④病院と連携して実践教育のできる教育補助者を有効活用し、その資質の向上に努める。</p> <p>⑤作成した自己導尿マニュアルを看護学生や臨床看護師へ紹介し自己導尿の普及に努める。</p> <p>⑥海外(タイ)の学生が保健学科訪問時に感染対策の取り組みについて病院内を見学案内する。</p> <p>【急性期看護実践学・急性期看護実習】</p> <p>術後の医療関連感染性廃棄物取り扱いの見学を取り入れる。急性期看護実践学の授業では、実践に役立つようフィジカルアセスメントやシミュレーション学内演習内容を充実させ執筆や研究論文を授業に反映する。シミュレーション基盤型教育セミナー(FunSim)、FumSimのアドバンスコースの研修を活かし急性期看護実践学の講義に独自でシミュレーション教育を発展させる。</p> <p>【感染看護】</p> <p>実際の病院見学で感染対策の実際を考察する。看護英語文献講読：米国看護師へ文献講読後にプレゼンテーションして学力向上にむける。</p> <p>【研究】</p> <p>学生の研究指導を行い、成人看護学分野における感染看護分野と尿失禁看護分野を学ぶ学生の人材育成を行う。</p> <p>1) 介護支援ボランティア活動を支援するための検討</p> <p>2) 自己決定を支援する患者会活動の在り方の考察</p>	0.30	<p>①学部担当科目の目標に照らし実践・研究にむけた看護教育内容を充した。</p> <p>②皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の実習において毎週火曜日に8時～9時：泌尿器科病棟、9時～13時泌尿器科外来で患者相談や検査、泌尿器関連の看護ケアを行い看護実践教育に活かした。</p> <p>③学生と教員として看護実習指導者と連携して積極的に意見を取り入れ授業と実習指導の評価を行い、評価結果について教室員全員から了承を得た。</p> <p>④病院と連携して実践教育のできる教育補助者を有効活用し、その資質の向上に努めている。</p> <p>⑤作成した自己導尿マニュアルを看護学生や臨床看護師へ紹介し自己導尿の普及に努めている。平成28年度4月から排尿自立指導料が加算され病院看護職員にも学生にも指導した。</p> <p>⑥海外(タイ)の学生が保健学科訪問時に感染対策の取り組みについて病院内や本島内史跡巡り見学案内し、学生と異文化体験を展開した。</p> <p>【急性期看護実践学・急性期看護実習】</p> <p>術後の医療関連感染性廃棄物取り扱いの見学を取り入れた。急性期看護実践学の授業では、実践に役立つようフィジカルアセスメントやシミュレーション学内演習内容を充実させ執筆や研究論文を授業に反映した。シミュレーション基盤型教育セミナー(FunSim)、FumSimのアドバンスコースの研修やシミュレーション教育指導者向けFD(平成29年1月修了書授与)を活かし急性期看護実践学の講義に独自でシミュレーション教育を発展させている。</p> <p>【感染看護】</p> <p>実際の病院見学で感染対策の実際を考察している。看護英語文献講読：米国看護師へ文献講読後にプレゼンテーションして学力向上にむけている。</p> <p>【研究】</p> <p>学生の研究指導を行い、成人看護学分野における感染看護分野と尿失禁看護分野を学ぶ学生の人材育成を行う。</p>	
研究	0.30	<p>①琉球大学附属病院職員看護師や地域連携ネットワークの方々と共に研究する。</p> <p>②第16回日本感染看護学会評議員として学会参加する。</p> <p>③平成29年2月の第32回日本環境感染学会評議員として学会での役割を努める。</p> <p>④関連企業や施設との共同研究を継続し、実社会に応用できる看護の研究開発に努める。</p> <p>⑤専門分野に関連した研究助成「ジェンダー研究」を受け、それに基づき研究活動を展開する。継続研究として平成28年度の研究報告を行う。</p> <p>⑥日本老年泌尿器科学会に参加して排尿機能検査士講習会を受け役割の継続を行う。また排尿機能検査士講習会に参加して認定継続を受ける。</p>	0.30	<p>①琉球大学附属病院職員看護師や地域連携ネットワークの方々と共に研究して平成29年2月1日沖縄地方会に報告した</p> <p>②第16回日本感染看護学会評議員として学会参加した</p> <p>③平成29年2月の第32回日本環境感染学会評議員として学会での役割を努める。東アジア感染制御カンファランス開催国：中国で英語講演した。</p> <p>④関連企業や施設との共同研究を継続し、実社会に応用できる看護の研究開発に努めている</p> <p>⑤専門分野に関連した研究助成「ジェンダー研究」を受け、それに基づき研究活動を展開する。継続研究として平成28年度の研究報告を行う。</p> <p>⑥日本老年泌尿器科学会に参加して排尿機能検査士講習会を受け役割の継続を行った。また排尿機能検査士講習会に参加して認定継続を申請する。</p>	
社会貢献	0.30	<p>①沖縄県医科学研究財団学術委員として学外の審議会参画に努める。</p> <p>②沖縄県ICNネットワーク勉強会代表世話人として県内の感染管理認定看護師や感染対策看護師そして安全管理対策看護師とともに連携して琉球大学医学部臨床研究棟で勉強会を1年に3回開催、第11回沖縄県ICNネットワークセミナーを開催し沖縄県感染看護の質向上に努める。</p> <p>③沖縄県尿失禁勉強会代表世話人として県内の尿失禁看護の専門職者と研究会や勉強会、公開講座を開催する。</p> <p>④関連施設との共同研究の成果を応用し、社会貢献を行う。</p> <p>⑤他大学・専門学校や医療施設の非常勤講師を務め、地域社会連携を深める。</p> <p>⑥県内で感染看護や尿失禁看護に関する市民公開講座を実施して「自己導尿マニュアル」を全国に紹介して啓発活動を行う。</p> <p>⑦沖縄県看護協会との連携を深め、講義をおとして看護や介護の質向上に取り組み、「皮膚・排泄認定看護師教育課程教員会・委員会委員」として看護協会会長から任命され平成28年度に教育課程開講する。</p> <p>⑧琉球大学附属病院での看護師としての看護実践、保健学科での看護教員としての教育、それを基盤として統合した研究、ユニフィケーションモデルを構築して社会に貢献し研究論文にまとめる。</p> <p>⑨「琉大病院介護支援ボランティアの活動支援プロジェクト」を継続して行い、琉大病院の患者や職員そしてボランティアを支援する。</p>	0.30	<p>①沖縄県医科学研究財団学術委員として学外の審議会参画に努めた。</p> <p>②沖縄県ICNネットワーク勉強会代表世話人として県内の感染管理認定看護師や感染対策看護師そして安全管理対策看護師とともに連携して琉球大学医学部で勉強会を1年に3回開催、第11回沖縄県ICNネットワークセミナーを計画し沖縄県感染看護の質向上に努めている。</p> <p>③沖縄県尿失禁勉強会代表世話人として県内の尿失禁看護の専門職者と研究会や勉強会、公開講座(4月2日と12月3)を開催した。</p> <p>④関連施設との共同研究の成果を応用し、社会貢献を行った。</p> <p>⑤他大学・専門学校や医療施設の非常勤講師を務め、地域社会連携を深めている。</p> <p>⑥県内で感染看護や尿失禁看護に関する市民公開講座を実施して「自己導尿マニュアル」を全国に紹介して啓発活動を行っている。</p> <p>⑦沖縄県看護協会との連携を深め、講義をおとして看護や介護の質向上に取り組み、「皮膚・排泄認定看護師教育課程教員会・委員会委員」として看護協会会長から任命され平成28年度に教育課程開講し平成29年2月に修了する。</p> <p>⑧琉球大学附属病院での看護師としての看護実践、保健学科での看護教員としての教育、それを基盤として統合した研究、ユニフィケーションモデルを構築して社会に貢献し研究論文にまとめている。</p> <p>⑨「琉大病院介護支援ボランティアの活動支援プロジェクト」を継続して行い、琉大病院の患者や職員そしてボランティアを支援している。</p>	
管理運営	0.05	<p>①医学部特別管理産業廃棄物管理責任者、医学部廃棄物処理委員会委員として医学部における廃棄物処理方法手順を作成し周知徹底を行う。また、エコアクションに関する取り組みを行う。</p> <p>②琉球大学附属病院感染対策委員会委員、感染対策実務者会議感染対策担当看護師、感染対策室員、感染対策室安全管理リスクマネージャーとして役割を遂行し附属病院における感染対策を行う。</p> <p>③琉大病院における九州厚生局医療監視に対応して院内感染対策・管理を紹介する。</p> <p>④琉大病院における感染対策院内研修会を医療法に遵守して職員が年2回出席できるよう開催し職員の質向上に努める。</p> <p>⑤琉大病院介護支援ボランティアの活動支援プロジェクト代表として事務部門とボランティアと連携して諸活動に積極的に参加する。</p> <p>⑥本学島嶼防災研究センターの委員として防災と災害復興に関連した活動を行う。</p>	0.05	<p>①医学部特別管理産業廃棄物管理責任者、医学部廃棄物処理委員会委員として医学部における廃棄物処理方法手順を作成し周知徹底を行っている。また、エコアクションに関する取り組みを行っている。</p> <p>②琉球大学附属病院感染対策委員会委員、感染対策実務者会議感染対策担当看護師、感染対策室員、感染対策室安全管理リスクマネージャーとして役割を遂行し附属病院における感染対策を行っている。</p> <p>③琉大病院における九州厚生局医療監視に対応して院内感染対策・管理廃棄物処理管理を紹介した。</p> <p>④琉大病院における感染対策院内研修会を医療法に遵守して職員が年2回出席できるよう開催し職員の質向上に努めている。</p> <p>⑤琉大病院介護支援ボランティアの活動支援プロジェクト代表として事務部門とボランティアと連携して諸活動に積極的に参加している。</p> <p>⑥本学島嶼防災研究センターの委員として防災と災害復興に関連した活動を行いシンポジウムで発表した。</p>	
診療	0.05	<p>①琉大病院感染対策室での感染対策担当看護師として活動しており、病院内の感染防止対策を実践している。ICD: Infection Control Doctor講習会を受けて認定資格を更新する。</p> <p>②看護学実習期間を除き、毎週火曜日に琉大病院泌尿器科病棟と外来で、排尿機能検査士・尿失禁相談看護師として排尿機能障害患者の面談や指導を行い実践・教育・研究のユニフィケーションモデルを構築する。平成28年4月排尿自立指導管理加算が診療報酬で認可されたことより、医師・看護師・理学療法士などチーム連携を図る。</p> <p>③琉大病院介護ボランティアの活動支援プロジェクトを継続して実施する。</p> <p>④診療活動支援を行い看護教員としての看護実践能力を養うと同時に外来の看護師が排尿機能検査士認定資格取得を支援する。</p>	0.05	<p>①琉大病院感染対策室での感染対策担当看護師として活動しており、病院内の感染防止対策を実践している。ICD: Infection Control Doctor講習会を受けて認定資格を更新した。</p> <p>②看護学実習期間を除き、毎週火曜日に琉大病院泌尿器科病棟と外来で、排尿機能検査士・尿失禁相談看護師として排尿機能障害患者の面談や指導を行い実践・教育・研究のユニフィケーションモデルを構築している。平成28年4月排尿自立指導管理加算が診療報酬で認可されたことより、医師・看護師・理学療法士などチーム連携を図っている。</p> <p>③琉大病院介護ボランティアの活動支援プロジェクトを継続して実施した。</p> <p>④診療活動支援を行い看護教員としての看護実践能力を養うと同時に外来の看護師が排尿機能検査士認定資格取得を支援した。</p>	
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>	1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		古謝 安子	所 属		医学部 保健学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	学部教育では、担当科目や分担科目をとおして看護専門職者の知識・技術・態度を理解し、修得できるよう実践的な技術と事例学習を取り入れる。大学院前期課程1年次4名の研究計画を明確にし、臨床研究倫理審査の承認を得て、調査を可能にする。前期・後期課程2年次は研究遂行と分析、論文作成の進行を補佐する。看護学コース長として附属病院看護部との教育や実習に関する連携・共同体制づくりについて検討する。29年度クォーター制導入に向けた進行と事務作業に積極的に参画する。			0.30	学部担当科目が本来の在宅分野に加え、後期より慢性期看護分野も兼担し、学生の集団学習と病棟看護師・認定看護師の専門性を活かした教育方法を取り入れ、学生から興味深く実践的であったとの授業評価を得た。卒研3名、大学院前期4名・博士1名の研究は計画通りに進行できた。附属病院における臨地実習の病棟看護師との協働体制について、看護部及び病院長との協議を始めた。全教員との調整役となりクォーター制時間割を作成し学生に公表した。		
研究	0.30	科学研究費助成事業の交付が内定している「小離島で島内在宅介護看取りを可能にする要因の研究」は、研究計画書の作成および臨床研究倫理審査委員会の承認を得て、渡嘉敷島での調査を始める。前年取組んだ研究を論文投稿する。本学COC事業「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成事業」では、介入研究による研究リーダー育成を目指す。			0.20	科研費助成の「小離島で島内在宅介護看取りを可能にする要因の研究」は、倫理審査委員会の承認を得て、渡嘉敷島において対象者19名の問取り調査を実施し逐語録データの分析を開始している。本学COC事業「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成事業」は、本部ヒアリングで高い評価を受け、全学的での報告を指名された。		
社会 貢献	0.20	附属病院看護部と八重山地区看護師を対象に、集団・個別研究支援を実施し、研究成果の院内外、県内外での研究発表促進を図る。また、琉球大学の公開講座として「看護職の研究力アップ講座」を開催し、民間医療機関の看護職者の研究能力向上を支援する。県・市町・職能団体への地域貢献を担う。			0.20	附属病院看護部と八重山地区看護師への研究支援により、研究成果は支援した全部署が院内発表でき、中から県レベル1~2例、県外1例発表できた。また、琉大公開講座「看護職の研究力アップ講座」では、4民間医療機関の看護師9名が参加し、研究をまとめ発表できた。県・市町・職能団体の委員会を運営した。		
管理 運営	0.20	各種委員会に積極的に参画する。教務委員長として学科教務の審議を進め、医学科共修科目や共通教育科目の運営を行う。看護学コース長として、日本看護系大学協議会の動向を見据え、コース運営に反映するとともに、依頼ある業務を速やかに処理できるよう事務方、教員間との連携を図る。			0.30	教務委員長として学科教務の審議・調整を事務方との緊密な連携で運営し、医学科共修科目や共通教育科目の担当、複数の委員会への積極的参画を行った。看護学コース長として、日本看護系大学協議会と関与・調整し、コース会議、運営に反映し、看護教育の質向上にむけ、教授間・教員間の連携を図った。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		大嶺ふじ子	所 属	医学部 保健学科	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.40	助産学必修科目(周産期学,助産の理論,ウイメンズヘルス,助産管理,助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ,助産実習Ⅰ・Ⅱ,助産統合実習計28単位)担当として、助産師コース選択学生4年次5人、3年次6人に対する助産学実践力評価尺度の基準を満たす講義・実習を行う。大学院前期課程1名、後期課程1名の研究指導教員として、地域や施設において研究調査を指導する。学部一年次21名の指導教員として、一年次早期体験実習オーガナイズ、1・3研修参加等、学部教育の1年次履修・進路指導に関わる。チェンマイ大学交流タスクフォース運営担当として参加し、看護系学部学生とチェンマイ大学看護系学生間交流を促進する。		0.40	助産学必修科目(周産期学・助産の理論・ウイメンズヘルス・助産管理・助産診断技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・助産実習・助産統合実習計23単位)を担当し、助産学実践力教授活動評価の基準を満たす講義・実習を行った。4年次5人、3年次5人計10名の卒業研究として、調査等を実施、研究指導した。大学院前期課程1名、後期課程1名の単位履修・研究に計画的に関わった。平成30年度助産師教育の大学院への移行をめざし、文科省との事前相談準備中である。チェンマイ大学と本学科の学生間相互短期研修計画、マネジメント、世話役として参加し、教員・学部学生との学術教育交流(看護学・検査技術学コースの歴史・展望を講義・施設見学)を行った。	
研究	0.30	あらゆるライフステージにある女性とその家族に対する研究調査を地域や施設において実施する。これまでの調査結果を原著論文(現在、1編投稿中)としてまとめ、学会誌採択を目指す。「唾液ストレスマーカーによる産褥期の父母および児のストレス状況調査」をテーマに29年度科研費採択を目指し調査研究を進める。		0.30	原著論文:Yoko Tamashiro, Fujiko Omine., Study of the midwifery care in 6 obstetrical facilities in Okinawa –Self-completed retrospective questionnaires for one month postpartum women–投稿中。Yoko Tamashiro, Shinobu Yamada, Fujiko Omine.,Correlation between the continuation of palliative self-care for Hiesyo during pregnancy and perinatal troubles – A longitudinal study from the second half of pregnancy to intrapartum–投稿準備中。「妊娠期における心身の出産準備を支援するセルフケア・アセスメントツールの開発と評価」をテーマに、29年度科研費採択を目指す。	
社会 貢献	0.20	母性看護学、助産コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育を、教員・大学院生とともに県内小中高等学校での出前講座を行う。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たす。日本母性衛生学会評議員・査読委員、日本助産学会評議員としての職責を果たす。		0.15	母性看護学、助産コース学生の地域実践力応用としての思春期健康教育を、教員・学部学生・大学院生とともに県内中学校での出前講座を行った。チェンマイ大学と本学科の学生間相互短期研修を毎年双方の大学で実施し、国際的視点を育むための教員・学生との学術教育交流を行った。沖縄県助産師会理事および教育委員として、助産師会会員の資質向上・会発展のための研修企画立案、事業運営、事務連絡等の役割を果たした。日本母性衛生学会、日本助産学会評議員としての職責を果たした。	
管理 運営	0.10	助産師教育課程の大学院への移行をめざし、教育理念・科目内容・単位の留意点を文科省に説明、スムーズな移行をめざす。大学評価外部評価委員会医学部保健学科執筆担当として、平成28年度最終報告書作成に協力する。保健学科教務委員、学務委員会3号委員、附属病院将来計画委員会5号委員、琉球大学国際沖縄研究所運営委員、保健学科入試委員、医学部組織整備検討委員としての職責を果たす。		0.15	保健学科副教務委員長として、保健学科教育全般の管理運営に関する職責を果たした。大学評価外部評価委員会医学部執筆担当として、平成28年度最終報告書作成に参加した。保健学科学務委員会委員、入試委員会委員、琉球大学国際沖縄研究所運営委員会委員、学部組織整備検討委員会委員としての職責を果たした。助産師コース選択学生4年次5人、3年次4人および大学院前期課程・後期課程各1名計2名の指導教員として、オフィスアワーを随時設定、各学生の身体的・精神的健康に留意、単位履修、学習意欲を促進できるような指導を行った。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		遠藤 由美子	所 属		医学部 保健学科
職 名				准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.40	1.母性看護学、助産学における教育方法の検討 わかりやすい講義、実習内容の工夫 (講義日程、資料、教授方法の工夫) 2.医学部教習科目および保健学科看護・検査コース合同授業への参画 (シミュレーション演習、実害に関する講義・演習) 3.卒業研究における教育法の工夫(演習の運営方法) 4.大学院生(前期、後期課程)への研究指導補佐 (研究計画、倫理審査準備、論文作成の補佐) 5.小児看護学教育への協力(講義分担当) 6.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導の実施 7.チェンマイ大学との交流タスクフォース (チェンマイ大学学生受け入れ担当分野)		0.35	1.母性看護学:アクティブラーニングを意図した講義の工夫:学生によるミニ講義と ディスカッションを取り入れた。 助産学:学習困難時に学生の心身のサポートと実習施設との調整を行った。 2.シミュレーション演習(医学部教習科目)、生命倫理の分担当、実害に関する講義・演習(保健学科看護・検査コース合同授業)を企画、運営実施した。 3.ゼミを定期開講し、文献抄読と並行して研究概論やプレゼンテーション法の演習を行い、論文作成やプレゼンテーションのポイントについて教授している。口頭発表、論文指導担当(主 3人、補佐2人) 4.大学院前期、後期課程の研究計画、倫理審査準備、調査分析の補佐を行った。 5.小児看護学講義を分担当した。 6.助産選択希望および助産選択学生に対する進路相談、指導を実施した。 7.チェンマイ大学との交流事業の企画、運営を行った。
研究	0.40	1.科学研究費による研究の実施(3件) ①基盤C分担当研究:妊娠・授乳期の食事摂取状況の実態と母乳栄養継続に関する全国縦断調査 ②基盤C分担当研究:女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築 ③基盤C分担当研究:父親の主體的な育児行動を促すパスプランを活用した看護介入プログラムの開発 2.大学COC事業における調査研究 島嶼医療における看護職の臨床看護研究育成能力 3.他大学教員との共同研究 更年期不定愁訴と生活習慣病の関連(神戸市看護大) 4.研究成果の公表(論文、学会発表) 5.平成29年度科学研究費およびその他外部研究資金獲得申請		0.45	1.①分担当研究者(山形大との共同研究)として学会発表を行った。 報告書作成、論文投稿に向けて準備中である。 ②分担当研究者として研究計画実施を補佐した。 ③分担当研究者として研究計画立案と実施を補佐した。 2.島嶼医療における看護職の臨床看護研究育成能力事業を進行中で、プログラム評価のための調査(質問紙、面接)を実施中である。 3.共同研究を進行中で、成果の一部を論文投稿した(分担当研究者)。 4.学会発表:国際(共同4)、論文発表:研究報告(共著1)、投稿準備中(筆頭、英2、邦1) 5.平成28年度科学研究費の採択はならなかった。 平成29年度科学研究費の申請を行った(研究責任者1、分担者2件)。 その他外部研究資金獲得申請も、不採択(1件)。
社会貢献	0.12	1.琉球大学附属病院看護部研修企画・運営支援(看護研究) 2.琉球大学医学部附属病院看護部看護研究の個別指導 3.大学COC事業における八重山地域の看護研究支援事業計画、実施 4.大学COC事業に関連した公開講座運営(5回/年) 5.オープンキャンパスの運営		0.14	1.附属病院看護部と協働し、研修企画、運営および研修講師を務めた。 2.2部門4課題の看護研究を担当し指導中である。 3.大学COC事業における八重山地域の看護研究支援事業計画、実施した。 4.看護研究力向上のための公開講座を企画、運営した(5回/年)。 平成29年度も開講に向けて申請中である。 5.オープンキャンパスの運営を行った。
管理運営	0.08	1.ジェンダー協働推進室会議への参画 2.ダイバーシティ推進会議への参画 3.生涯学習教育研修センター委員会への参画 4.資料館(風樹館)運営委員会への参画 5.医学部交通対策委員会への参画 6.保健学科FD委員会への参画(FD企画運営)		0.06	1.ジェンダー協働推進室会議への参画 2.ダイバーシティ推進会議への参画 3.生涯学習教育研修センター委員会への参画 4.資料館(風樹館)運営委員会への参画 5.医学部交通対策委員会への参画
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	玉城陽子		所 属	医学部 保健学科	
職 名	助教				
領域	業務ウエイト比(予定)	平成28年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.40	1.母性看護学(演習2回)、母性看護実践学(演習3回、講義1回)を担当し、シミュレーターを使用したより実践的な教育を実施する。 2.助産師国家資格取得のための基礎助産学として、周産期学(7回)、助産の理論(1回)、ウイメンズヘルス(1回)を担当し、視覚的な教材を用いて理解しやすいように工夫する。 3.助産診断・技術学Ⅰ(講義1回)、助産診断・技術学Ⅱの科目担当 助産診断について実際の症例検討を加えながら講義する。 4.助産診断・技術学Ⅲの科目担当 シミュレーション教育を取り入れて演習を実施する。今年度より分娩期のOSCEを導入する。 5.助産実習Ⅰ 6月より実習調整を開始、7月より継続症例の妊婦健診での外来実習を開始、9月分娩助産の基本的な実習を実施し、コミュニケーション能力や協調性を身につけさせる。 6.助産実習Ⅱ 10月・11月分娩期から産褥期までの1連の助産実践力を身につける教育を病棟での実習をおとして実施。長期の実習であることから、学生の健康の自己管理の指導、精神面のフォローもしていく。 7.医学科との共修科目であるシュミレーション演習を担当し、チーム医療の視点を学習させる。 8.卒業研究Ⅱの登録学生2名を指導 9.大学院生(前期課程)への研究指導補佐(調査・データ分析・論文作成指導補佐) 10.卒業生の現在の動向を踏まえて、助産選択学生を含めた看護コース学部学生への就職・進学のための情報提供を実施する。卒業生への大学院進学情報を提供し、社会人入学への進学指導を実施する。	0.40	1～4. 母性看護学領域および助産学領域についての講義・演習は、シミュレーターを使用し、視覚的な教材を用いて理解しやすいように工夫した。特に助産学領域の演習に関しては、シミュレーションセンター主催のFDに参加し、シミュレーション教育を取り入れ、シナリオを作成後、2事例について実施した。分娩助産技術についてのOSCEを実施した。  5.6. 助産実習Ⅰ、助産実習Ⅱ 9月～11月分娩期から産褥期までの一連の助産実践力を身につける教育を病棟での実習をおとして実施した。学生は健康面では問題はなかったが、精神面のフォローが必要な学生があり、3度の面談を実施して学生の成長を促しながら終了することができた。 7.医学科との共修科目であるシュミレーション演習で「見る・聴く・触る体験2:腹痛を訴える患者」を担当した。 8.卒業研究Ⅱの登録学生2名を指導し、発表・小論文作成まで実施した。 9.大学院生(前期課程)の研究に関する相談を受け、調査紙回収、データ入力・分析について指導した。 10.助産選択学生を含めた看護コース学部学生への就職・進学のための情報提供を実施した。卒業生より転職の相談を受け、情報提供と現状を踏まえてのみとおしについて面談した。 11.平成28年度助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー・CLoCMiP)レベルⅢ認証制度 アドバンス助産師として認証されたことにより教育の質の向上に役立っている。	
研究	0.40	1.「出生体重と母体の栄養摂取状況」について学会誌へ投稿、学位取得を目指す。 2.科学研究費助成(基盤C)による研究の実施:「女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築」についての研究を継続実施し、中間報告をAPACPHにて発表する。 3.母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当	0.50	1.「出生体重と母体の栄養摂取状況」について、再分析し、3月学会誌へ投稿予定。学位取得は来年度へ持ち越しとなった。 2.科学研究費助成(基盤C)による研究の実施:「女子大学生の月経・基礎体温を利用した生活習慣・食習慣改善プログラムの構築」についての研究を継続実施し、中間報告をAPACPHにて発表した。 3.母性衛生学会沖縄県支部の事務局を担当し、会長との連絡・事務処理を行った。	
社会貢献	0.10	1.沖縄県助産師会の研修への協力 2.全国助産師教育協議会の機関会員・個人会員として、他大学と協力しながら助産師教育の質の向上と、大学院教育課程について検討していく。 3.SOLA沖縄学園救急救命士養成コースにて分娩助産法の講義・演習を5回実施 4.琉球大学附属病院看護部研究支援を継続して実施する。 5.琉球大学医学部保健学科同窓会会計として会の運営に参画する。	0.05	1.沖縄県助産師会の研修へ助産学生を積極的に参加させて先輩助産師と交流する機会を設けた。また、会員として運営の補助を実施した。 2.全国助産師教育協議会の機関会員・個人会員として、他大学と協力しながら助産師教育の質の向上と、大学院教育課程について検討した。鹿児島大学等大学院教育を実施しているところとの情報交換および、協議会からの学生の到達度調査および助産実践能力を育成する教育方法に関する調査への協力を行った。 3.SOLA沖縄学園救急救命士養成コースにて分娩助産法の講義・演習を5回実施し、第4回九州山口学生救急救命技術選手権に2チーム参加し、産科救急の課題があり、結果2・3位であった。 4.琉球大学附属病院看護部研究支援を継続し、今年度は医療福祉支援センターより研究の相談を受けた。 5.琉球大学医学部保健学科同窓会会計として会の運営に参画した。	
管理運営	0.10	1.チェンマイ大学との学生間交流:受け入れ担当分野として企画・運営・調整にあたる。 2.保健学科FD・学習支援委員会への参画 3.オープンキャンパスの助産師教育紹介を担当する。	0.05	1.チェンマイ大学との学生間交流:受け入れ担当分野として企画・運営・調整に携わり、他分野の協力の下、トラブルなく終了した。チェンマイ大学側からも好評であった。 2.今年度は、保健学科FD・学習支援委員会の活動はなかった。 3.オープンキャンパスにて、助産師教育紹介を担当し、高校生から保健学科に進学し助産コースを目指すとの声も聞かれた。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)													
名 前		辻野 久美子		所 属		医学部 保健学科		職 名		教授			
領域		業務 ウェイト比 (予定)		平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)		平成28年度 年度末自己点検結果					
教育・ 学生支援		0.42		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科・研究科の基本理念、看護学教育目標を基盤とし、学部教育においては学生が看護職者に必要な知識・技術を習得し、資質の向上が図れるように教授法を工夫する</li> <li>・大学院の授業はゼミ形式とし、学生が自主的に小児看護学を学び、理解が深まるようにサポートする</li> <li>・博士後期課程の学生2名の研究指導、論文作成を指導する</li> <li>・卒業研究指導および進路指導を行う</li> <li>・2年次生の指導教員として、その責務を果たす</li> <li>・学生支援委員長の責務を果たす</li> </ul>		0.42		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標は達成できた。</li> <li>・学部教育については昨年に引き続き、学生主導のプレゼンテーションや演習を実施し、学生評価も概ね良好であった。H27年度のBest of lecturerに選出され、モデル授業を実施した(授業は儀間助教が実施)。</li> <li>・大学院ではゼミ形式の授業展開に加え、学生が多角的に母子支援を捉えることが出来るように外部講師による特別講演を企画した。新たに学生の希望で、質的研究(M-GTA)に関するゼミを学生主導で展開した。</li> <li>・卒業研究指導を3名に行い、文献検索から研究発表まで、一連の研究の流れを教授した。博士論文研究指導を2名に実施した。</li> <li>・2年次生の指導教員としての責務を果たし、担当の学生19名は全員無事に進級する予定である(1名は今年度新規の指導学生で継続休学中)。</li> <li>・進学、就職の個別相談に応じ、進路指導を行った。</li> <li>・学生支援委員長として、2コースそれぞれについて、就職支援講演会を実施した。</li> </ul>					
研究		0.40		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学会誌への投稿を行う</li> <li>・国際・国内学会において研究成果を発表する</li> <li>・外部資金の獲得に積極的に努める(厚労科研補助金、学内外助成金他)</li> <li>・他大学と共同研究を継続実施する</li> </ul>		0.40		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標は達成できた。</li> <li>・和文原著論文を1篇学会誌に掲載予定である(accept済み)。</li> <li>・看護系の著書1冊を分担執筆した。</li> <li>・2つの国内学会で3編、国際学会で1編研究発表を行った。</li> <li>・科研費1件が継続採択され(研究代表者)、研究を継続実施した。</li> <li>・科研費1件の助成を受けた(研究分担者)。</li> <li>・山口大学(継続1件)の教員と、遺伝看護の協同研究を実施中である。</li> </ul>					
社会貢献		0.09		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における関連部署、担当者と連携を図る</li> <li>・講演等の要請があれば、積極的に応じる</li> <li>・「沖縄県発達障害児者看護を考える会」の月例会を、継続して企画運営する</li> <li>・「沖縄県発達障害児親の会・マイワールド」の副会長の責務を果たす</li> <li>・質的研究の分析手法、修正版グラウンデッドセオリーアプローチ(M-GTA)の「沖縄県地方研究会」の活動を継続する</li> </ul>		0.09		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標は達成できた。</li> <li>・「沖縄県発達障害児(者)看護を推進する会」を立ち上げ、昨年に引き続き、自閉症児の保護者、教員、学生による勉強会を月1回継続実施した。</li> <li>・「沖縄県自閉症親の会」の副会長(賛助会員)として、会の運営に協力した(メール会議への参加等)</li> <li>・「M-GTA沖縄地方研究会」の代表として、全国合同ワークショップで会の運営について報告した(発表は代理に依頼)。年度内に、県内ワークショップを実施する予定である。</li> </ul>					
管理運営		0.09		<ul style="list-style-type: none"> <li>・講座主任・分野長の責務を果たす</li> <li>・各種委員会委員等、任命された委員会における責務を果たす</li> <li>・学生支援委員長の責務を果たす</li> </ul>		0.09		<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標は達成できた。</li> <li>・講座主任・所属分野長としての責務を果たした。</li> <li>・学生支援委員長の責務を果たした。</li> </ul>					
計		1.00		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		小林 潤	所 属		医学部 保健学科
職 名				教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.33	<p>学部学生の卒業研究について大学院教育とのリンクを深め、看護師としての国際保健について早期体験型の学習を進める。これは実務の現場の体験と研究をリンクさせることによって実現する。保健福祉政策論、保健関係医療法規の学習を体系化させ、いままで導入してきた参加型学習法を強化して保健医療の現場でリーダーとして推進するための考える力をつけさせる。大学院・学部教育にも遠隔教育、英語での教育を強化する。大学院教育では、昨年度実施された留学生特別プログラムを主体に、教室所属以外の学生を考慮した体系化したカリキュラム作成と英語による教育の実施体制を強化する。担当の学部学生・大学院生へのメンタルサポートを強化する。引き続き国際保健分野を志望する学生のコンサルテーションを継続し大学院生にも拡大させ、適切な進路選択を促す。3年次の担当学生について進路指導を開始する。</p>		0.34	<p>学部学生の卒業研究において、ラオスでの研究が実施され極めて質の高い学位論文が作成された。またタイ・ケニアでのインターン体験を導入、チェンマイ大学での研修を支援し国際保健を志す学生の早期体験が強化された。保健福祉政策論、保健関係法規は高齢社会に視点をあて地域包括ケアの課題学習をとりいれ最新の課題にアップデートさせた教育をおこなった。また大学院教育だけでなく学部教育にも英語での実施を盛り込み、グローバル人材の育成を強化した。大学院では、留学生特別プログラム学生を中心に公衆衛生学研究の体系的教育に取り組み、さらには質的研究においても多くの研究法を体系的に教育することを試みた。大学院教育では、9月卒業学生の研究が、ラオス国保健研究国際フォーラムにて最優秀ポスター賞を受賞し質の高い研究成果が得られ、さらには英語論文での投稿を準備している。一方大学院生の研究実施が遅延する傾向にあり、改善にむけて教員からのスーパーバイズ・セルフマネージメント両面を組織的に強化した。9月に卒業した大学院生には、進路指導を積極的に行った結果、一名は母子保健事業を展開するNPO法人のラオスでの現地プロジェクト調整員、他一名は博士課程に進学した。学部学生に関しても積極的進路指導を行い、国際保健に関連した病院等を紹介し、さらに海外勤務についての相談もおこなった。また3年次担当学生については、所属教室の確認とともに進路相談を実施した。</p>
研究	0.30	<p>継続3課題(沖縄県委託事業1課題、科研1課題、国際医療研究開発費1課題)について、研究の推進と研究の公表を図る。新規3課題(科研1課題、国際医療研究開発費2課題)については研究班会議の開催等、海外共同研究者と国内研究者のマッチング等研究実施体制を研究班全体に諮る。分担研究者として担当するJST2課題(ケニア・ラオス)について研究成果創出を図る。海外研究プロジェクト等を29年度に申請のするのための準備を開始する。</p>		0.28	<p>発表論文は2題におわったが、いずれもマラリア研究では最高のIFをもつ雑誌に採択され、下記のように研究成果をえられているので、予定通りの成果を得ている。沖縄県委託事業(感染症研究拠点形成事業媒介動物分野)では、学際的アプローチにて2年目にしてすでに多くのエビデンスを上げることができ最終年度の発表にむけて着実に達成している。科研、国際医療研究開発費による研究は、論文としてまとめずに国際誌に投稿済みである。新規3課題についても研究プロトコル作成が終了し研究が開始された。また高齢社会に対する研究班では研究班会議を2回琉球大学で開催し研究班全体をリードする形で進められた。ケニアでのJSTの大規模研究では学術的成果を得て、熱帯医学の国際学会・国内学会での発表を終えている。また海外研究プロジェクトの申請については各協力機関との話合いが進められた。</p>
社会 貢献	0.17	<p>国際学校保健コンソーシウム理事長として、シンクタンク機能を拡大し昨年度開始したWHO、日本関連省庁との連携を強化し世界戦略策定への還元を図るとともに各国への政策還元を図る。NPO法人JAMの代表としての難民支援を継続支援する。JICA研修事業を継続し、大学院教育とのリンクを確立する。</p>		0.17	<p>国際学校保健コンソーシウム理事長として、シンクタンク機能を拡大し昨年度開始したWHO、日本関連省庁との連携を強化し、WHOとともにアフリカでの学校でのNC D対策についてのレビューを実施し3月7-8日には検討会議を日本で開催する予定である。また2月におこなわれるアジア学校保健政策マネージメント研修では今年も大学院生の参加を行う予定である。NPO法人JAMの代表としての難民支援を継続支援した。JICA研修事業として根拠のある公衆衛生計画の集団研修を継続実施、また沖縄県看護協会の実施する研修すべてに研修講師として貢献し、保健学研究科大学院生のこれら研修への参加が実現し、社会貢献事業と教育のリンクが強化された。</p>
管理 運営	0.20	<p>留学生の学業・生活支援を組織的に且つ個々に強化する。学部学生・大学院生の海外研究の実施につきマネージメント体制(共同研究・倫理・安全等)強化を継続するとともに学生への啓発を特に強化する。また大学院教育を通じて看護コースの研究支援体制をさらに強化する。</p>		0.21	<p>学部学生・大学院生の海外研究の実施につきマネージメント体制(共同研究・倫理・安全等)強化を行い、現在海外での研究を予定していた、すべての学生が安全に研究を実施できた。また留学生については積極的にコンサルテーションを行い、順調に研究が進んでいる。</p>
計	1.00	<p>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野中 大輔	所 属	医学部 保健学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.70	大学院生に対する授業(Public Health Research、前期・後期)を担当する。留学生に配慮し、英語で授業を行う。その他、演習(1回/週)や個別指導を通して、大学院生の研究能力向上に努める。学部生に対する授業(症候病態論、後期)を担当する。		0.70	大学院生に対する授業(Public Health Research、前期・後期)を担当し、英語で授業を行った。演習(1回/週)や個別指導(数回/週)を通して、大学院生の研究能力向上に努めた。学部生に対する授業(症候病態論、後期)を担当した。学部生に対する他の授業(国際環境保健学、ヒトの健康科学)において、講義1回分を担当した。よって、年度目標を達成したと判断する。	
研究	0.10	国際学術誌に2編の論文発表を目指す。国際学会にて2件の発表を行う。獲得した外部資金(科研費)を用いて海外で研究を開始する。日本国際保健医療学会の代議員として、学会の研究活動に貢献する。SATREPSプロジェクトの研究協力者として、国内外の研究者と共同研究を推進する。		0.10	国際学術誌に3編の論文発表を行った。国際学会にて2件の発表を行った。獲得した外部資金(科研費)を用いて海外(ラオス)で研究を開始した。日本国際保健医療学会の代議員として、学会の研究活動に貢献した。SATREPSプロジェクトの研究協力者として、国内外の研究者と共同研究を推進した。よって、年度目標を達成したと判断する。	
社会 貢献	0.10	本学のJICAプロジェクト(ちゃーがんじゅー学校地域歯科保健プロジェクト)のプロジェクトメンバーの一員として、ラオス国の保健衛生改善を通じた国際貢献を行う。		0.10	本学のJICAプロジェクト(ちゃーがんじゅープロジェクト)のプロジェクトメンバーの一員として、ラオス国の保健衛生改善を通じた国際貢献を行った。また、アフリカ諸国の研修員を対象としたJICA研修(エビデンスに基づく公衆衛生)の講師を務めることによって、国際貢献を行った。よって、年度目標を達成したと判断する。	
管理 運営	0.10	附属図書館運営委員会や附属図書館学術情報基盤資料選定委員会の委員、およびグローバル教育支援機構の併任教員として、管理運営に貢献する。		0.10	附属図書館運営委員会や附属図書館学術情報基盤資料選定委員会の委員、およびグローバル教育支援機構の併任教員(アドミッション部門会議、web出願ワーキンググループ)として、管理運営に貢献した。よって、年度目標を達成したと判断する。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	當山 裕子		所 属	医学部保健学科		職 名	講師	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果			
教育・学生支援	0.40	<p>「地域アセスメント」「地域看護学」「公衆衛生看護実践学Ⅰ」「公衆衛生看護実践学Ⅱ」「島嶼地域看護論」「公衆衛生看護管理」の講義を担当する。</p> <p>「地域アセスメント実習」「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」「看護総合実習」を担当する。</p> <p>「ヒトの健康科学」「シミュレーション演習」の一部の講義を担当する。</p> <p>卒業研究登録希望者の3年次や卒業研究登録済の4年次を対象に、研究ゼミを行う。</p> <p>保健師就職希望者への進路相談を行う。</p> <p>実習指導者会議、社会貢献などの機会に行政保健師へ大学院進学をすすめる。</p>		0.50	<p>「地域アセスメント」「公衆衛生看護実践学Ⅰ」「公衆衛生看護実践学Ⅱ」「島嶼地域看護論」「公衆衛生看護管理」の講義を担当した。「地域看護学」「公衆衛生看護学概論」のシラバス作成・運営に助言した。講義内容は主体的に学び続ける人材を育成する目的で、アクティブラーニングを取り入れた。また「公衆衛生看護実践学Ⅱ」ではJICA研修生との交流会を企画・実施し学生の国際保健への関心を深めた。「地域アセスメント実習」「公衆衛生看護実習Ⅰ」「公衆衛生看護実習Ⅱ」を担当し地域社会に貢献できる学生の育成に努めた。</p> <p>「ヒトの健康科学」「シミュレーション演習」の講義(各々1コマ)、「生命倫理学」ディベートのチューターを担った。</p> <p>4年次を対象に、卒業研究ゼミを行い、4年次3名が発表および論文作成を行った。また3年次3名の研究計画を指導し、学内研究倫理委員会への申請を行った。</p> <p>保健師就職希望者への進路相談を行い、4年次4名が沖縄県に保健師として採用が決まった。また、既卒生への相談にも応じ、2名が那覇市へ採用が決まった。</p> <p>実習指導者会議、社会貢献などの機会に行政保健師へ大学院進学をすすめ、2名が相談に訪れたが受験には至らなかった。</p>			
研究	0.40	<p>保健師の能力や地域住民のソーシャルサポートに関連する検討を行い、国際学会発表や論文投稿を行う。</p> <p>科研C「母親側リスク要因を持つ虐待ボーダーライン事例支援スキル測定ツールの開発」、科研C「プライマリ・ヘルスケアに基づく地域診断ツールの開発と評価：無作為化比較試験」に分担研究者として参加する。</p>		0.20	<p>育児中の母親の育児不安とソーシャルサポートに関連する検討を行い、国際地域看護学会で発表を行った。地域住民の精神的健康とソーシャルキャピタルに関する検討が琉球医学会誌に採択された(共同研究者)。日本公衆衛生看護学会でワークショップを開催した。</p> <p>科研C「母親側リスク要因を持つ虐待ボーダーライン事例支援スキル測定ツールの開発」、科研C「プライマリ・ヘルスケアに基づく地域診断ツールの開発と評価：無作為化比較試験」に分担研究者として参加した。</p>			
社会貢献	0.10	<p>那覇市新任保健師等人材育成事業や沖縄県看護協会主催の「新人保健師研修」で講師を務める。</p> <p>沖縄県看護協会が受託し開催している国際協力機構沖縄国際センター主催の研修会で講師を務める。</p> <p>沖縄県看護協会65周年事業委員として活動する。</p> <p>沖縄県「健やか親子おきなわ21」推進専門部会の委員として活動する。</p> <p>那覇市母子保健推進協議会の委員として活動する。</p>		0.20	<p>沖縄県看護協会主催の「新人保健師研修」で講師を務めた。</p> <p>沖縄県看護協会が受託し開催している国際協力機構沖縄国際センター主催の研修会(公衆衛生・母子保健強化分野)で講師を務めた。</p> <p>沖縄県看護協会65周年事業委員として活動した。</p> <p>那覇市母子保健推進協議会の委員として活動した。</p> <p>全国保健師教育機関協議会(全保教)理事を担い、熊本地震に関連した震災プロジェクト委員会の委員長を務め、夏季研修会にて分科会を開催した。これに関連し、全保教近畿・東海ブロック研修会にて講師を務めた。</p>			
管理運営	0.10	<p>教授不在中、分野の代表となる。</p> <p>保健学科教務委員会の委員として活動する。</p> <p>看護学コース臨地実習検討委員として活動する。</p> <p>全国保健師教育機関協議会九州ブロック幹事校(H27・28)として活動する。</p> <p>また同協議会の全国理事を担う。</p>		0.10	<p>教授不在のため、分野の管理運営を行った。</p> <p>保健学科教務委員会の委員として活動した。</p> <p>看護学コース臨地実習検討委員として活動した。</p> <p>保健学研究会世話人として活動した。</p> <p>保健学科コース会議へ出席し、全保教理事会などで収集した全国の動向等、情報提供を行った。</p>			
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</p> <p>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</p> <p>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)												
名 前		外間 知香子		所 属		医学部 保健学科		職 名		助教		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果					
教育・ 学生支援	0.30	①「地域看護学」、「地域アセスメント実習」、「公衆衛生看護学概論」、「公衆衛生看護実習Ⅰ」、「公衆衛生看護実習Ⅱ」の講義を担当する。また、分野で開講する「地域アセスメント」、「島嶼地域看護論」、「公衆衛生看護実践学Ⅰ」、「公衆衛生看護実践学Ⅱ」、「公衆衛生看護管理」は主担当を補佐する。 ②「シミュレーション演習」の一部の講義を担当する。 ③卒業研究の登録を希望する3年次の卒業研究ゼミを担当する。 ④保健師国家試験対策模試の係として、4年次の国試対策を年2回実施する。 ⑤保健師就職希望者への進路相談を行う。				0.40	①「地域看護学」、「公衆衛生看護学概論」はシラバス作成、非常勤講師との調整、講義資料の準備、試験の実施など、スムーズに実施することができた。また、「地域アセスメント実習」、「公衆衛生看護実習Ⅰ」、「公衆衛生看護実習Ⅱ」においては、学生が実習しやすいように配慮し、指導者や関係者との調整を行った。 ②シミュレーション演習の分担担当として、コミュニケーション演習の講義を運営・実施した。 ③3年次の卒業研究のゼミを定期的に行い、参考書に沿って研究方法を学習させ、文献抄読会を行った。また、卒業研究の調査にむけて、学内研究倫理審査委員会への書類提出等の指導を実施し、学生3人が倫理審査の書類を提出した。4年次においては、11月から12月にかけて集中的に卒業研究を指導し、3人とも卒業研究発表会で発表し、論文作成を行った。今後も自分自身の研究力の向上に励み、学生へ指導・助言ができるように努める。 ④保健師国家試験模擬試験の日程を調整し、予定通り2回実施することができた。 ⑤保健師就職希望者の学部生や卒業生に対して、随時進路相談を実施した。今年度は4年次4名が沖縄県の保健師採用、既卒生2名が那覇市の保健師採用の内定が決まった。					
	研究	0.40	①母子保健に関するテーマで若手研究として科学研究費助成の申請を行う。 ②科研C「乳児家庭全戸訪問事業における不適切養育行動の判断指標の開発」と、厚生科研「こども虐待ポータルライン事例に対する保健師の支援実践」に分担研究者として参加する。 ③科研Cまたは厚生科研の成果を日本公衆衛生看護学会で研究発表または論文投稿する。 ④毎月開催の保健科学研究会に参加する(年11回)。また、年1回は研究成果を発表する。				0.30	①研究企画室の個別支援制度を活用し、科学研究費申請アドバイザーによる指導を受けて、母子保健に関するテーマで科学研究費助成の申請を期日に間に合わせて実施することができた。 ②科研C「乳児家庭全戸訪問事業における不適切養育行動の判断指標の開発」、厚生科研「こども虐待ポータルライン事例に対する保健師の支援実践」の分担研究者として参加した。 ③厚生科研の研究チームで、日本公衆衛生看護学会のワークショップで研究成果を報告した。また、県内の保健師を対象に、厚生科研の成果報告会を実施した。 ④保健科学研究会は1回を除きすべて参加した。また、同会において「支援契機別による保健師のこども虐待ポータルライン支援事例の特徴」を発表した。				
		0.20	①沖縄県看護協会主催の「新人保健師研修」で講師を勤める。 ②大学間連携共同教育推進事業、大学コンソーシアムの担当として活動する。				0.12	①新人保健師研修会では、4回の講義すべてにおいて講師の補佐を務めた。 ②大学間連携共同教育推進事業、大学コンソーシアムの担当として会議に出席した。看護系の3大学で看護学生を対象に実施しているナース・キャリア・カフェでは、講師調整など準備から運営、評価まで実施した。				
	管理 運営	0.10	①オープンキャンパスの準備、運営を学生と共に実施する(7月)。 ②研究概要(教室分取りまとめ)を作成する(年1回)。 ③教室のホームページを管理・運営する。 ④103実習室、ゼミ室を管理・整備する。				0.18	①オープンキャンパスは保健師コーナーの担当として、準備から実施まで学生と一緒に実施した。当日は宜野湾市の『美らがんじゅう体操』を実施し、保健師コースの説明や保健師になるための相談を学生主体で実施した。 ②研究概要は期日に間に合わせて提出することができた。 ③教室のホームページを随時更新し、管理・運営することができた。 ④103実習室は借用名簿を作成し、管理・運営した。また、ゼミ室においても適時環境整備を行った。				
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		與古田 孝夫	所 属		医学部 保健学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視聴覚教材、研究業績を活用した授業展開</li> <li>・TA(Teaching Assistant)による授業補助及び授業法の教授、研究指導法について助言</li> </ul>			0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内容に応じて関連する視聴覚教材を活用するなど、学生の興味関心をひく授業展開を心がけた。授業内容に関連するものについては、研究で得られた知見を提示した。指導する大学院前期課程1年次学生1名をTAとして活用し、授業法の教授並びに研究指導法について助言を行った。</li> </ul>		
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・助教・大学院学生を含む研究論文の投稿、発表</li> <li>・助教・大学院学生を含む関連学会への成果発表</li> </ul>			0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原著論文3編(共著)が学術誌に受理され、国際・国内学会において各1演題の発表を行った。</li> <li>・科学研究費補助金基盤研究(C)(代表):「島嶼県沖縄の伝統型地域力が介護および介護扶養意識に及ぼす影響」、平成28年度 特別経費(代表):「長寿社会を支える人材育成プログラムによる調査研究」、平成28年度琉球大学COC事業:「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成」(分担)による調査研究)、琉球大学女性研究者支援研究費:「SST(Social Skills Training)を活用した統合失調症患者の心的外傷に及ぼす介入効果の検証」等の調査研究ならびに研究支援活動を行った。</li> </ul> <p>以上の研究成果発表及び外部資金獲得等、研究領域の目標は達成できたと考える。</p>		
社会貢献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外審査会委員活動</li> <li>・学術集会における講演・研修会活動</li> <li>・教育機関への教育支援</li> </ul>			0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西原町及び中部広域連合の介護認定審査会委員を務めた。</li> <li>・西原町障害者介護給付認定審査会の委員長を務めた。</li> <li>・沖縄県介護審査会委員を務めた。</li> </ul> <p>以上の活動により、社会貢献領域の目標は達成できたと考える。</p>		
管理運営	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学及び所属部局における委員会活動</li> <li>・所属学科等の管理運営活動</li> </ul>			0.15	<p>全学大学院委員会委員のほか、所属学科内での各種委員会委員を務めた。</p>		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高原 美鈴	所 属	医学部保健学科精神看護学分野	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	・臨床実践を踏まえた授業ならびに実習指導		0.30	・授業内容に関しては、これまでの臨床実践経験をふまえ、演習形式の授業を行った。 ・実習指導においては、安心・安全に学習できるよう実習先との連絡調整を行い取り組んだ。	
研究	0.40	・国内外の関連学会への成果発表 ・学会誌への投稿 ・H28年度科学研究費助成事業		0.40	・The 48th Asia Pacific Academic Consortium for Public Health学会にて成果発表を行った。 ・原著論文3編(共著)が学術誌に受理された。 ・H28年度科学研究費助成事業で対象者に面接調査を実施している。	
社会 貢献	0.10	・附属病院看護部との看護研究ユニフィケーションへの参画 ・八重山病院との看護研究ユニフィケーションへの参画 ・医療法人かりゆし病院との看護研究ユニフィケーションへの参画		0.25	・琉球大学医学部附属病院との看護研究ユニフィケーションにおいて、8東病棟の看護研究指導を行った。 ・H26～H29年度琉球大学COC事業:「島嶼医療における看護職の臨床看護研究能力育成」(分担)により八重山病院、かりゆし病院の看護研究指導を行った。 ・医療法人フェニックス博愛病院へ看護研究指導を行った。	
管理 運営	0.10	・全学的委員会活動 ・入試関連業務における貢献		0.05	・全学的委員会活動(1)を務めた。 ・入試関連業務を遂行した。 ・オープンキャンパスの企画・運営に関わり、参加した。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上原 佳里奈	所 属	医学部 保健学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	初年度のため、前期は授業の運営方法の把握、後期は分野長指導の下で講義・実習を担当する。 学生とコミュニケーションをとり、適切なアドバイス・指導ができるようになる		0.30	形態学及び病理学の顕微鏡実習を担当した。染色実習に関しては、試薬の準備から実習指導まで実施できた。また、チェンマイ大学研修の引率を任せていただいた。タイ渡航時やチェンマイ滞在時に、学生のサポートができた。 卒研究生や担当教科の学生と積極的にコミュニケーションをとり、適切なアドバイスができた。	
研究	0.65	学会での発表、外部資金獲得のために科研費申請に挑戦する		0.60	第105回日本病理学会(仙台)で研究発表を行った。病理組織学的手法を学ぶため、日本組織細胞学会主催の研修会に参加した。外部資金獲得のため、科研費申請に挑戦した。英語論文の執筆と査読に挑戦した。	
社会 貢献	0.05	沖縄県臨床検査技師会の学会運営を手伝う		0.05	検査技師会の研修会の世話役を担当し、運営の手伝いを行った。	
管理 運営	0.05	オープンキャンパスの運営、入試の試験監督		0.05	オープンキャンパスの運営に参加した。また、センター試験の監督業務を行った。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		平井 到	所 属		医学部 保健学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	講義・実習においては、積極的な学習姿勢を涵養できるよう、学生との対話を増やす仕組みを設ける授業展開をすすめる。4年次生の指導教員であるため、卒後自立していかなるものにも取り組める医療人となるよう、特に国家試験に向け指導を行う。また、メンタルヘルスの観点から学生生活を注視し、必要があれば当該学生に対し面談を行う。			0.35	おおむね目標は達成できたと考えられる。講義中に受講学生に対し偏りが無いように質問を投げかけるなど講義で重要な点について考えることを求め、また、学生から質問を受けるように心掛けた。指導教員としては休みがちな学生や精神的なストレスを抱える学生への対応なども行った。		
研究	0.35	日本学術振興会の科研費や他の財団等からの研究費の獲得をむけ、学内外の共同研究者と研究計画を作成し申請する。複数の論文投稿、学会発表を行う。			0.35	学内外の研究者と協働して日本学術振興会の科研費や財団等への研究計画の応募を行った。また、日本医療研究開発機構からe-ASIA共同研究プロジェクトを受託した。数件の論文投稿及び学会発表を行った。		
社会 貢献	0.15	地球規模課題対応国際科学技術協力におけるベトナム研究者への技術移転を行う。			0.15	ベトナムでの現地研修を行い、ベトナム人研究者に技術移転を行った。また、ベトナム人研究者を筆頭著者とする論文作成指導を行った。		
管理 運営	0.15	「遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会」等、学内、学部内委員会への積極的な取り組みを行う。			0.15	「遺伝子組み換え生物等使用実験安全委員会」の副委員長、琉球大学附属図書館医学部分館長、学内、学部内委員を務め、積極的に委員会に臨んだ。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		尾尻義彦	所 属		医学部 保健学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットWebclass(ICT)による授業の実施</li> <li>・学生実習(生理学・臨床生理学Ⅰ)の効率化と充実を図る</li> <li>・卒業研究の指導</li> <li>・公開講座「市民ランナーのためのランニング講座」の実施</li> <li>・公開講座「峠走(岩本塾)」の実施</li> <li>・地域連携推進事業「ミニトランポリン運動教室(西原町)」の実施</li> <li>・地域連携推進事業「ミニトランポリン運動教室(宜野湾市)」の実施</li> <li>・オフィスアワー等における進路指導</li> </ul>			0.40	目標はすべて達成された。		
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニトランポリン運動の医学・生理学的効果に関する研究</li> <li>・高齢市民ランナーの医学、生理学的特徴に関する研究</li> </ul>			0.20	両研究は、いずれも継続中である。		
社会 貢献	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民を対象としたランニングクラブの運営と指導</li> <li>・沖縄リハビリテーション福祉学院における「生理学」の支援</li> <li>・今帰仁村におけるスポーツ振興の支援</li> <li>・ミニトランポリンによる健康運動の啓蒙・普及</li> <li>・沖縄県マスターズ陸上競技連盟の理事(副会長)</li> </ul>			0.35	目標はすべて達成された。		
管理 運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産学官連携部門連絡会委員</li> <li>・講座連絡会の運営</li> <li>・大学入試センター試験監督</li> <li>・オープンキャンパスの準備・運営</li> </ul>			0.05	目標はすべて達成された。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		福島卓也	所 属	医学部 保健学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生が理解しやすい授業の工夫</li> <li>・学生とのコミュニケーションを重視した授業</li> <li>・学部生への研究指導</li> <li>・保健学研究科学生に対する専門教育</li> <li>・国費外国人留学生に対する専門教育</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健学科だけでなく医学科学生に対して授業を行い、左記の目標を達成した</li> <li>・4年次卒業生4名に対する研究指導を行った。</li> <li>・当教室博士後期課程2名、博士前期課程3名に対する研究指導を行うとともに、保健学研究科学生全体に専門教育を行った。</li> <li>・当科国費外国人留学生に対する研究指導とともに、その他当研究科国費外国人留学生に対する専門教育を行った。</li> </ul>	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AMED研究費補助金(塚崎班)による分担研究者としての研究</li> <li>・沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業受託に向けた取り組み</li> <li>・論文投稿</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AMED研究費による医師主導治験の研究事務局を担当した。</li> <li>・沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業に採択され、研究を推進した。</li> <li>・corresponding author論文1報を含め、6報の論文が採択された。</li> </ul>	
社会 貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療機関への診療支援</li> <li>・骨髄移植推進財団調整医師としての活動</li> <li>・日本血液学会評議員としての活動</li> <li>・日本造血細胞移植学会評議員としての活動</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハートライフ病院、かりゆし病院において診療支援を行った。</li> <li>・骨髄移植推進財団調整医師として活動した。</li> <li>・日本血液学会評議員として、専門医認定委員会、診療委員会などの委員会活動を行った。</li> </ul>	
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健学科長としての仕事</li> <li>・保健学研究科長としての仕事</li> <li>・医学部内委員会委員としての活動</li> <li>・学科内各委員会委員としての活動</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健学科長、保健学研究科長として運営、研究費獲得のために活動した。特に研究プロジェクト推進経費を獲得した。</li> <li>・学部内、学科内委員会委員として、医学部、保健学科の安定した運営に貢献した。</li> </ul>	
診療	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部附属病院血液内科外来担当</li> <li>・血液内科入院患者カンファランスでのアドバイス</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部附属病院第二内科血液グループの新患外来担当、カンファランスにおけるアドバイザーとして患者診療に貢献した。</li> </ul>	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		